

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果では、国語「情報の扱い方」に関する事項、算数「データの活用」領域で、東京都の平均正答率を上回った。対して国語「目的に応じて事実と意見を区別して書くなど表現の工夫をすること」「文の中で主語と述語の関係を読み取ること」、算数「図形」「速さ」の分野の平均正答率が低かった。

○意欲的に学習に取り組む児童もいるが、問題解決に向けて論理的に考えたり、自分の意見や考えを友達に伝えたりする活動について自信がもてない児童が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

- 児童が主体的に学習に取り組む時間が十分に確保できていない。
- 児童一人ひとりの考えを友達同士で交流する場面で対話を通して互いを高め合い、深い学びにつなげる指導を工夫する必要がある。
- 本時のめあてが達成できたかを児童自身が振り返る時間が取れていない。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○児童が知識・技能を習得し、習得した知識を活用して考える力、表現し伝える力を育むために、児童の主体的な学びを引き出す問題解決学習や協働学習・探究的な学習の充実を図り、自立した学習者を育てよう授業改革を図る。

○家庭と協力して一人一台端末が活用できる環境を整え学習の個別最適化を図るとともに、図書館を活用した探究活動及び読書活動を推進し、学力の定着と向上を図る。

○協働的な学びを通して学んだことを発信し、実践する行動力を身に付けさせる。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底	視点2 読み解く力の育成	視点3 総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。	○基礎的読解力の6分類等の明確な視点をもって教科書等を読み取る場面を設定する。INPUT→THINK→OUTPUTの流れを授業の中に設定する。特に子どもが主体的にOUTPUTする場面を設定する。	○探究的な学習の中心となる総合的な学習のカリキュラムとの接続を図り、確かな学力と各教科との横断的な力を定着させる。 ○教科学習の中で生まれた児童の興味関心に沿った課題を取り入れるよう工夫する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○「環境教育」の実践の中で、動植物の保護や飼育、栽培を通して、地域で生活していく自分たちの生活環境に興味関心をもたせ、SDGsやESDを意識した探究をすすんで実践できる児童の育成をめざす。 ○地域との連携を深めつつ、学校と地域が協力して郷土を愛する心情と日本の伝統文化（昔遊び、落語、和太鼓、お囃子、狂言など）の体験を通して日本の良さに気付き、伝統・文化を大切にしている心情を育てる。	○各教科等の学習をつなげ、学んだことを実社会での問題発見・解決に生かす実践力を育成するため、異学年交流や教科等横断的な実践的活動や意図的・計画的な指導を行う。そのため、学年合同で総合的な学習の時間を活用できるよう年間指導計画・時間割を工夫する。 ○専門性の高い教員が児童の指導にあたるよう、高学年に理科講師を配置し、複数教員で実験・観察等を実施する。 ○低学年では、授業時数を減らし、放課後補習教室を年10回行う。	○一人一台端末を、問題解決の過程の様々な場面で、効果的に活用できるように低学年から系統立てて指導を行い、児童が一人ひとりが課題を見つけ、探究的に課題に取り組めるよう支援を行う。 ○多様な考えを取り入れながら、自分の考えを再構築したり、自分の思いを表現する楽しさに気付くような学習を設定したりすることで、児童の主体的に学ぶ意欲の向上に努める。

【令和6年度 授業改善推進プラン】

板橋区立 上板橋小学校

【国語】

■児童の状況	①学習に対して、意欲的に取り組み、漢字の練習や音読などを家庭学習で取り組ませた場合きちんと取り組む児童も多いが、取り組みが難しい児童も少なからずおり、二極化が見られる。 ②読書が好きな児童が多いが、すすんで本を手にしないう児童もいる。 ③「話す」「書く」「受けて返す」に関して、学年が上がるほど「話す」ことに苦手意識をもつ児童が多くなる傾向がある。また「受けて返す」ことについては更にその傾向が強くなる。「書くこと」について、中・高学年での十分な力が付いていない。 ④漢字を文の中で正しく書くこと、目的や意図に応じて自分の考えを明確にして書くこと、文と文のつながりを考えて接続語を使って内容を分けて書くこと、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることについては理解が十分とはいえない。
■指導についての課題	①漢字を使うことを日常的に意識させる必要がある。 ②表現することにおいては、だれに、何を伝えたいのか、表現したいのか、自分の考えをはっきりさせて表現する必要がある。また、相手の話をよく聞き、問われていることに正対して表現できるように意識させる必要がある。 ③文章読解においては、係り受け解析、照応解決、同義文判定、推論等読み解く力を付ける指導をしていかなければならない。また、教科書の内容だけでなく、読書の幅を広げていく必要がある。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	①「漢字」の学習では、まず、正しく丁寧に書くことを指導する。その上で、漢字の成り立ちや熟語の意味などにも触れるようにする。ICT等を活用しゲーム的要素も取り入れ慣れ親しませる。 ②「話すこと・聞くこと」の学習では、授業や朝の会などでスピーチをする際に、伝えたいことを明確にして話すことができるよう、モデルビデオや話型を活用し指導する。また、話の組み立ての工夫も意識をさせる。話し合い活動では、受容的態度を醸成し、自分の考えと相手の考えを比べながら、話し合うことを意識させる。 ③「書くこと」の学習では、時間をかけて長文を書くばかりではなく日常的に短作文に頻繁に取り組ませ、書くことへの抵抗感を減らしていく。また、題材に身近なものや自分の体験等にするすることで、相手意識をもたせた指導をする。 ④「読むこと」の学習では、説明的文章は、指示語や接続語などに着目し、正しく読むことを意識させ、筆者の意図をつかむような読みに取り組ませる。適宜、図表や写真などを併用しながら指導にあたる。また、文学的文章では叙述に即して読むことを意識させ、多様な読みがあることの面白さを味わわせる。更に、朝読書の時間を活用し、読書の幅を広げられるようにしたり、アニメーションなど取り入れ、読書の楽しさを知らせ、自ら本を手取るよう指導する。 ⑤伝統的な言語文化に触れるために、学年の発達段階に合わせて教材を選ぶとともに、音読・朗読・群読・動作化などで表現することを通して、言葉の豊かさを味わえるようにする。

【令和6年度 授業改善推進プラン】

板橋区立 上板橋小学校

【社会】

■児童の状況	①身近な社会事象に興味・関心をもっているが、自らニュースや新聞などから日常的に情報を得ている児童は多くない。 ②体験学習や調べ学習は好きである。しかし、グラフや表・写真などの資料を読み取り、分析や考察、既習の知識や技能を活用して課題を解決する力は十分とはいえない。 ③本・インターネット・インタビューなど、いろいろな方法で調べる活動をしてきている。しかし、それらの資料を適切に選択して自分の考えをまとめ、明らかにすることは十分ではない。 ④ 地図帳の見方・等高線のよみ方、東京都の区・市・町名、都道府県名、歴史上の人物名などの知識については個人差が大きい。
■指導についての課題	①身近な社会事象に興味をもち、自分の力で課題を発見し、追究・解決しようとする力を育成する必要がある。 ②課題をまとめ発表する際には、何を伝えたいのかという意識をもたせることが必要である。さらに、資料の選択・判断・要約とそれをもとにした自分の考えの明確化、論理的な思考力・表現力も併せて育成する必要がある。 ③基本的な知識を身に付ける際には、名称などを単に覚えるだけの学習ではなく、自分の知識・経験と結び付け、関連付けながら覚えていくような指導をする必要がある。
■授業革新推進改善に向けての具体的な方策	①身の回りの出来事や、新聞・テレビ等の報道を活用して身近な社会的事象への興味・関心をもたせる。そこから、社会で問題となっていることや関心を集めていることをもとに課題を設定して話し合いを行い、社会的事象への興味・関心を高める。 ②資料を正しく読み取り、様々な資料を関連付けて自分の考えをもち、適切に資料を活用して表現することができるように、課題を設定して、個人やグループで調べる活動を積極的に行う。その際、いろいろな手段を用いて調べたり、複数の資料を比較・活用したりすることができるように助言をし、調べ方の学習を丁寧に行う。 ③資料や、観察・見学を通して考えたことを、分かりやすく説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりすることを通して言語活動の充実を図り、論理的な思考力を育成する。 ④各学年の基本となる知識を確実に身に付け、言葉と現象、名称と特徴などを関連付けて習得することができるようにする。また、地図帳や地球儀を積極的に活用し、地図帳の見方については繰り返し学習を行い定着を図る。地名を地図帳で確かめる習慣を付け、国土の特徴を国民の生活・産業・経済に関連付けて理解し、活用することができるようにする。

【令和6年度 授業改善推進プラン】

板橋区立 上板橋小学校

【算数】

■児童の状況	①自力解決するための既習の知識や技能が十分に身に付いている児童と、そうでない児童の個人差が大きい。 ②領域により得意と不得意が分かれ、計算領域は得意なものの図形領域が苦手な児童が見られる。また、量感がつかめず、長さ・面積・体積の単位の換算が理解できていない児童が多い。 ③今年度の全国学力学習状況調査の結果を見ると、全16問中10問において、全国平均を超える正答率を出した。中でも「数と計算」領域の数量関係を口を使って表す問題では、93.9%の正答率となった。反面、球の直径から体積を求める問題では、正答率が低くなっている。また、知識を活用し思考・判断する力の向上がさらに望まれる。
■指導についての課題	①基礎的・基本的な学力を身に付けさせるために、授業の中で既習事項の確認や「見通し」のもたせ方、「振り返り」を適切なまとめ方など児童の実態に応じた指導方法を工夫する。 ②量と測定や図形についての的確に捉えられるようにするために、具体的・体験的な数学的活動を取り入れるとともに、生活体験と結び付ける必要がある。 ③問題解決の力を養っていくために、本時の問題を解決するために既習事項で使える知識・理解や技能は何かを自分で考えられる力を育成する必要がある。 ④数学的な表現力を高めていくために、集団検討の際に様々な考え方を取り上げ、その良さに気付いていけるような指導の工夫する。 ⑤学習内容が児童の生活に生きていくようにするために、他教科の学習や生活の中で活用できる機会を多く設ける。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	①学習内容の確実な定着を図るために、少人数指導での習熟度別学習の実施や学力向上専門員などによるティームティーチングを行う。 ②学習意欲を高め、量的な感覚や図形の理解の定着を図るために、具体物や半具体物、ICT機器を活用したり、数学的な活動を多く取り入れたりする。 ③自力解決ができるようにするために、既習事項の確認や、図、数直線、線分図、表の活用、簡単な数値に置き換えるなどの方法を伝えることで、自分の考えがもてるようにする。また、それらが活用できるような掲示物を工夫していく。 ④表現力を高めるため、数学的な表現の良さや価値に気付けるように、授業中に全体発表をした児童の考え方を価値付けしたり、ノートにコメントを入れたりするなど指導者が、毎時間、適切な評価をしていく。

【令和6年度 授業改善推進プラン】

板橋区立 上板橋小学校

【理科】

■児童の状況	①中学年では、自然や動植物への興味関心は高く、観察や実験等に積極的に取り組む。 ②仮説を立てて観察実験計画を立案することや得られた結果から筋道を立てて論理的に結果や考察を導くことが苦手な児童が多い。
■指導についての課題	①結果を予想したり、結果から新たに疑問を見い出したりする学習活動や、実験・観察の結果をまとめる学習活動、さらには実験や観察で得られた結果から考察につなげられる学習活動に積極的に取り組ませる指導の工夫が必要である。 ②ICT機器や実験観察器具を有効活用できるような学習環境を整える必要がある。 ③主体的・対話的で深い学びにつなげられる指導の工夫が必要である。 ④身近なことに興味をもち、調べようとする探究心の育成が課題である。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	①理科室に実物投影機やモニターなどのICT機器を常設し、すぐに使えるように学習環境を整える。また、使われない実験観察器具を廃棄し、現在の学習指導要領に則った実験観察器具を活用しやすいように配置し直すなど、理科室内の環境整備を進める。 ②日頃から身の回りの自然事象に対して興味をもてるよう、理科に関する図書を購入したり、理科室前掲示物について話をしたりする。 ③実験・観察等を通して、できるだけ多く実物に触れさせる機会を作り、実体験に基づいた知識が得られるようにする。また、デジタル教科書などの映像資料も活用する。 ④活動の内容に応じて、ペアやグループでの活動を取り入れ、児童一人ひとりができるだけ多く操作したり実験したりできるようにする。そのために必要な数の実験器具をそろえておく。 ⑤準備、実験、観察、記録、後片付けという、実験の流れを身に付けさせ、速やかに活動できるよう日頃から指導する。 ⑥仮説を立てて観察実験計画を立て、検証する活動を通して科学的な見方や考え方を養えるようにする。 ⑦実験の目的、方法、予想、結果、考察までの道筋を確かめ、見通しをもたせることで、学習の手順や目的意識を明確にさせる。 ⑧ペアやグループなどの学習形態を工夫し、児童が友達の意見を聴こうとする姿勢を育てるとともに、友達と自分の考えを比較したり、よいところを取り入れたりして、考えを深めることができるようにする。

【令和6年度 授業改善推進プラン】

板橋区立 上板橋小学校

【生活】

■児童の状況	①学校や学校の周り、地域の様子に関心をもって、意欲的に学習に取り組み、気づきや発見をたくさんしている。 ②植物や生き物に対する関心には個人差があり、植物を栽培したり生き物を育てたりした経験のない児童もいる。 ③活動や体験を通した児童の気づきの積み重ねが不十分で、その場限りのものとなってしまう、次の学習に生かせない児童がいる。 ④1・2年生合同の活動を通し、互いに自分たちの役割を考えたり相手を気遣ったりしながら、仲良く学び合っている。
■指導についての課題	①年間を通し、各単元の学習に具体的な活動や体験を組み込みながら計画を作成していく。その際に、活動や体験だけが単発的にならないように学習の目標を明確にし、他単位との関連や1・2年の系統性を考慮する必要がある。 ②学校、地域、保護者や家族など、身近な人と接する機会を多くし、自分たちをとりまく人々との関わりを通して、心が豊かに通い合う学習の機会を多くする必要がある。 ③自然の素晴らしさや大切さに気付かせるために、年間を通して、植物を栽培したり生き物を育てたりする活動を組み入れる必要がある。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	①「見つける、比べる、たとえば」などの多様な学習方法を取り入れ、児童の気づきの質を高められるよう意識して授業を組み立てる。 ②指導と評価の一体化を図るために、ワークシート等を活用し、児童の思考が読み取れるようにする。 ③単元ごとの細かい記録や資料を残し、次年度に継続発展できるようにする。 ④学校探検、町探検、お正月遊びなど、地域と連携し人と関わり合う活動をさらに充実発展させる。 ⑤保育園・幼稚園・小学校の連携を深めるため、保育園と1年生との交流活動を計画し実践する。 ⑥1・2年生合同の活動を定着させるとともに、活動場面を設けるだけでなく、紙面、動画等で学んだことを伝え合う活動も取り入れ交流する。 ⑦一人一鉢で植物を育てたり生き物を育てたりする活動や、安全性を考慮しながら身の回りにある自然に触れ合う活動を取り入れる。

【令和6年度 授業改善推進プラン】

板橋区立 上板橋小学校

【音楽】

■児童の状況	①低学年は、音楽活動に対する興味・関心が高く、歌唱、器楽、リズム遊びに意欲的に取り組む姿が見られる。 ②中学年は、音楽活動全般に意欲的である。リコーダーや鍵盤ハーモニカの基本的な奏法が身に付いている児童が多い。 ③高学年も、音楽活動に意欲的・自発的に取り組む児童が多い。中学年での学習が積み重なっていて、楽しみながら演奏する様子が多く見られる。
■指導についての課題	①低学年は、同じ事柄を色々な方法で繰り返し練習し、学習の定着を図る必要がある。鍵盤ハーモニカの基本的な奏法をしっかり指導する。 ②中学年は課題の難易度が増してくるため、個人差が大きくなるように、個別指導の時間を多く取り入れる必要がある。リコーダーの基本的な奏法は中学年でしっかり指導する。 ③高学年は、これまでの学習を生かして課題に取り組む必要があるため、学習の振り返りを丁寧に行い、メタ認知を高めていく。今の学習が次の学習へつながっていくような指導が必要である。
■授業革新推進に向けた具体的な方策	①低学年では、歌や鍵盤ハーモニカ、リズム模倣などの活動をバランス良く取り入れる。日本に伝わる歌遊びや手遊びをすることで、友達と関わり合いながら音楽に親しむことができるようにする。授業のはじめに本時のめあてを確認し、終わりにはめあてを達成することができたかを問いかけ、学習の振り返りを大切にし、学びを確認していく。 ②中学年では、低学年で積み重ねてきた基礎的な技能を確認しながら指導を行う。教科書をよく読む習慣を身に付け、内容を理解した上で音楽の学習を進めるようにする。中学年でも日本に伝わる歌遊びや手遊びを通して、伝統文化を大切にする心情を育てる。ペアやトリオなどのグループ設定をしておき、関わりをもちながら探究的に課題に取り組むことができるようにする。また、問題解決の場面などでは一人一台端末を効果的に活用することで、主体的に学ぶ意欲の向上に努める。 ③高学年では、既習事項を生かして新しい課題に取り組むことができるようにするために、教科書をよく読む習慣を身に付け、学習と学習のつながりを意識していくよう指導する。音楽づくりや合奏のパート練習では自分の考えを元に友達と関わり、共に課題を解決していくような場面を設定する。一人一台端末を活用することで、多様な学習が現実となり、音楽の楽しさを味わわせるとともに生活が豊かなものになるようにしていく。

【令和6年度 授業改善推進プラン】

板橋区立 上板橋小学校

【図画工作】

■児童の状況	①低学年は、制作の基礎基本となる、はさみや接着剤、描画材に慣れ親しみながら楽しく活動している。 ②中学年は、制作活動が好きな児童が多く、創意工夫を考えたり、加えたりすることができる力がある。 ③高学年は、児童によって学びに向かう姿勢に大きな差がある。自らすすんで制作に取り組み、創意工夫できる児童もいるが、消極的な姿勢の児童は技術面や内容理解での支援を必要としている場合が多い。
■指導についての課題	①児童自らの創意工夫を制作に取り入れさせることが課題である。それが創作の醍醐味であり、なおかつ、これから必要とされる力であることを伝えたい。 ②完成イメージのもてない児童や、失敗を恐れ自分らしい作品に到達できない児童への支援を工夫する必要がある。 ③制作速度に差があるため、制作が早く終了した時の簡単で安全な課題の準備や、時間のかかる児童への声かけや支援、補習などを工夫していく必要がある。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	①一つの課題の中に様々な制作工程を入れ、身体感覚を刺激しながら創作できるような題材を設定する。その中で、少しずつ発想を引き出し、集中力を途切れさせず、構想を練るトレーニングを積んでいく。そして児童が自ら新しい表現を見出すことができた時、それを認め励ましていく。 ②制作の参考になるような多種多様な資料を用意し、イメージの具体化や自信をもって制作することにつなげる。また、基礎となる制作の仕組みや手立てを提示し、そこから自分の作品へ生かされるようにする。 ③技術習得に重点をおいた小題材を発達段階と実態に応じて設定する。小さいながらも課題を達成する喜びを積み重ねながら、大きな題材や自由制作時に発揮できるような技術力を育てていく。

【令和6年度 授業改善推進プラン】

板橋区立 上板橋小学校

【家庭】

■児童の状況	① 意欲的に取り組む児童が多い。特に、調理や裁縫の実習に、興味・関心の高い児童が多く、積極的に楽しんで取り組む姿が見られる。 ② 調理や裁縫の実習において、技能の個人差が大きい。上手く作業ができず苦手意識のある児童や、自主的に活動することが苦手な児童もいる。 ③ 授業で学んだことをすすんで日常生活に生かしたいと考えているが実際に生かしている児童は少ない。
■指導についての課題	① 調理や裁縫の実習において、できるだけ個別の指導が必要である。 ② 日々の授業を、安全に、かつスムーズに児童が行えるように、個々に使う道具の整理や水道、ガスの点検など、家庭科室の環境整備が必要である。 ③ 基礎的な家庭科の技術の必要性を理解させ、身に付けさせることが必要である。 ④ どのようなことができるようになったかを家庭でも共有し、協力を求め、児童が学んだことを実践できる機会を作る。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	① ティームティーチングで指導を行い、細かい指導が行き届くようにする。指導者間で打ち合わせを行い、特に実習時では、役割をきちんと分担しておく。保護者ボランティアの方々の協力をいただき、安全を確保する。 ② 個人の作業時間が多くなる実習などは、それぞれの児童の学習の進度に合わせて、個別に対応していく。早く終わった児童は、違う課題を用意して取り組めるように工夫する。 ③ 作業等、得意な児童の力も生かしながら、苦手意識がある児童の意欲も高めるために、教え合いを積極的に行う。 ④ 作業スピードの違う児童が主体的に学習に取り組めるように、ICT機器を活用し、手順や方法などが視覚的に分かるようにする。 ⑤ 児童の使用する調理器具や道具を点検し、メンテナンスや修繕を行う。また、児童が自主的に片づけをできるよう、収納場所の見直しを行う。 ⑥ 授業の中で、調理や裁縫の実習の時間を多くとれるように工夫する。また、家庭生活に生かせるように、より実践的な内容を取り入れて考えさせるようにする。長期休業期間では、家庭科で学んだことを実践できるような課題を出したり、自分でできること（衣服の管理、修繕、調理、洗濯、掃除、整理整とんなど）はすすんで行うように指導したりする。

【令和6年度 授業改善推進プラン】

板橋区立 上板橋小学校

【体育】

■児童の状況	①児童の関心・意欲は、どの運動領域でも、全学年で高い。特定の運動領域に対して苦手意識をもっている児童がいる。 ②技能面で、ボールを投げたり捕ったりする運動能力の個人差が大きい。特に投げる動作がぎこちない児童が多い。また、全学年で持久力に課題がある。 ③勝敗にこだわるあまり、チームの仲間や相手チームに対して傷つけるような強い態度をとってしまう児童がいる。 ④自分に明確なめあてがあると、熱心に取り組むことができる。一方、自分のめあてを見付けることが苦手な児童もいる。めあての設定が不十分だと、体を動かすだけになることがある。
■指導についての課題	①苦手意識をもっていたり、経験に差があったり、多様な児童の状況に対応するための工夫が必要である。また、どの運動領域もすべての児童が生き生きと楽しめるような工夫が必要である。 ②児童に運動のポイントとなる動きをきちんと把握させる必要がある。 ③友達とのよい関わり方等、態度面を指導する必要がある。 ④体力向上に焦点を当てた学習内容を、年間指導計画の中に位置付けて取り入れることが必要である。
■授業革新推進に向けた具体的な方策	①運動の特性と児童の実態を考慮した授業を組み立てる。また、つまづきを予想し、それに応じた学習の場を工夫したり、課題を解決しやすくするためにスモールステップで授業を構成したり、必要に応じて個別指導も行う。 ②運動のポイントを分かりやすく伝え、模範となる児童の上手なところを学級全体に広める。 ③フェアプレーや友達に対する励ましの言葉かけを常に褒めるようにする。また、どのような行動がフェアプレーであり、どのような言葉が励ましの言葉かけなのかを具体的に例示する。 ④様々な運動領域の学習で、学習カードを活用するなどして、一人ひとりが明確な目標設定ができるようにする。 ⑤運動朝会の内容を精選し、発達段階に配慮した運動を行う。本校においては、瞬発力や持久力について向上させるために、縄跳びや持久走など、関連する内容を取り入れて行う。タブレットパソコンを活用してポイントになる動きを示したり、動きを振り返ったりして学習できるようにする。また、学校行事などの特別活動とも連携を図り、児童の意欲をより高めながらすすんで運動に取り組めるようにしていく。

【令和6年度 授業改善推進プラン】

板橋区立 上板橋小学校

【外国語・外国語活動】

■児童の状況	・アクティビティ活動に意欲をもち、積極的に取り組む姿が見られる。外国語でのコミュニケーションに親しみながら活動している姿が見られる。他の授業ではあまり発言が多くない児童が外国語の授業ではすすんで発言している姿が見られる。 ・外国語活動に苦手意識をもっている児童がいる。苦手意識があると、積極的に参加できないでいる。英語に触れる機会が多い児童とそうではない児童との個人差が大きい。週に数回の練習では発音等を忘れてしまう児童が多い。
■指導についての課題	①ゲームやコミュニケーション活動に学習意欲を高める必要がある。(中学年) ②過去に学習した外国語の基本的な表現方法を生かしながら、コミュニケーション能力の育成を図る指導方法の開発をする必要がある。 ③繰り返し発音の練習をする機会をつくる必要がある。(高学年)
■授業革新推進に向けた具体的な方策	①外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図れるようにするため、ALTや友達と、楽しく取り組める活動(ゲーム、チャンツなど)を毎時間設定する。ペアやグループでの活動を多く取り入れ、毎時間、すべての児童が外国語で表現ができる機会を設けるとともに、基本的な表現方法を身に付けられるようにする。 ②一単位時間の学習の流れ(LESSON STYLE)を視覚化し、児童がゴールをめざして主体的に授業に参加できるようにする。既習事項の活用を繰り返し行うことにより、外国語の基本的な表現の定着を図る。原則として外国語を使って指導していくが、指導する児童の実態に合わせ、適宜、日本語の説明を付け加えていくことにより、児童の理解を助けられるようにしていく。 ③ALTと児童がより授業の中でコミュニケーションしやすいように、ALTの考えや担任の意見を聞き、担当者が必要に応じて教材等を準備する。 ④タブレットのデジタル教科書を使用し、繰り返し発音練習ができるようにする。 ⑤「一人一台端末の活用」の推進のため、ミライシードのムーブノートなどを活用して自分の学習内容を振り返ることができるようにする。

【令和6年度 授業改善推進プラン】

板橋区立 上板橋小学校

【総合的な学習の時間】

■児童の状況	①各学年の実態に合わせた指導計画に基づいて学習活動を行うことで、学ぶ内容が体系化されているため、学習の積み重ねができている。 ②主体的に取り組む児童の様子が見られ、楽しく取り組もうとしている。 ③図書資料や一人一台端末等のICT機器を目的に合わせて使い分け、調べたことを自分の考えに沿ってまとめたり、自分の言葉で伝えたりしている。
■指導についての課題	①より実態に合わせた学習を進められるように、指導計画の工夫をする必要がある。 ②集めた情報や資料の中から、目的に応じて、自分の考えに適したものを選択できるようにする支援が必要である。 ③各教科で学んだことを活用できるように、各教科との関連をもたせた課題を設定していく必要がある。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	①児童の実態や学校・地域の状況に合った指導計画を作成し、児童がより主体的・協働的・探究的に学習できるようにする。 ②本年度実施した内容をまとめ、次年度の資料として保存し、次年度の活動に役立てる。外部講師や学校支援地域本部のボランティアの協力を得て人材の活用を進める。 ③自分の考えをまとめ、それを発表したり発信したりすることで、自分の課題について振り返る場面を設け、さらに探究をしていく活動につなげていく機会を提供する。 ④各教科や特別活動とのつながりを明確化し、指導計画の中に入れていく。

【令和6年度 授業改善推進プラン】

板橋区立 上板橋小学校

【言語活動の充実】

■国語	全ての教科で「話す・聞く」、「書く」及び「読む」の各学習活動において、日常生活に必要とされる言語活動の能力を確実に身に付けることができるよう、継続的に指導する。また、基本的な知識・技能を活用しながら、互いに考えを深めたり、まとめたりしながら課題を解決していく学習活動を充実する。
■社会	問題解決的な学習や体験的な学習を充実させることにより、学習や生活の基盤となる知識・技能を習得させる。また、観察・調査をしたり各種の資料から必要な情報を読み取ったりしたことを、自分の言葉でまとめ、伝え合うことにより互いの考えを深めていく学習活動を充実する。
■算数	数学的な思考力、判断力、表現力等を育成するため、見通しをもち、根拠を明らかにしながら筋道を立てて考える学習活動を充実する。また、言葉や数、式、図、表、グラフなどを適切に用いて問題を解決し、自分の考えを分かりやすく説明したり、互いに考えを表現し合ったりする学習活動を充実する。
■理科	科学的な見方・考え方の育成を図るため、学年や発達段階、指導内容に応じて、観察・実験の結果を整理し考察する学習活動、科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする学習活動を充実する。
■生活	身近な人々、社会及び自然との関わりや自分自身について考えたり、気づきの質を高めたりするため、活動や体験したことを振り返ったり他者と交流したりする学習活動を充実する。
■音楽	表現や鑑賞の活動において、音色、リズム、音の重なりなどから美しさを感じ取る学習、感じ取ったことを基に思いや意図をもって音楽表現をしたり、音楽全体を味わって聴いたりする学習活動を充実する。
■図画 工作	表現や鑑賞の活動において、形や色、材料の感じ、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえながら、感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどの学習活動を充実する。
■家庭	衣食住など生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動や、自分の生活における課題を解決するために、言葉や図表などを用いて、生活をよりよくする方法を考えたり説明したりする学習活動を充実する。
■体育	ゲームや練習などにおける励ましや協力をする事、練習方法や作戦を考えたり、成果を振り返ったりするための話し合い活動を充実する。また、健康・安全に関する知識を活用する学習活動を充実する。
■外国語・ 外国語活動	外国語でのコミュニケーションを体験する機会を通して、コミュニケーション能力を育成する学習活動を充実する。
■総合的 な学習の 時間	問題の解決や探究活動の過程において、協働して問題を解決しようとする学習活動や、言語により情報を分析したり、まとめたり表現したりするなどの学習活動を充実する。